

# 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ

## The Road to Higher Education for People with Disabilities: Part II

皇學館大学現代日本社会学部 建部 久美子

はじめに

1. 佐世保市における展開
2. 知的障害者生涯学習実行委員会の企画
3. とびだせ！オープン・カレッジ in させほの学生スタッフの提案
4. 新聞報道「知的障害がある人々に対する公開講座」
5. 県教育庁生涯学習課からの依頼
6. とびだせ！オープン・カレッジ in させほ第2期生開始
7. 県立大学学生の講座担当の試み
8. 平成18年度オープン・カレッジ in させほ総会開催
9. 2009（平成21）年度ながさき県民大学
10. 県立大学最終講座 “とびだせ！オープン・カレッジ in させほ”

おわりに

はじめに

現在わが国では、知的障害等を含む支援を必要な人々を対象に、卒後教育、生涯学習の保障が各地で展開されている。具体的には、東北における青森県立

保健大学、東北大学、関東における東京学芸大学および青年学級、関西における大阪府立大学、桃山学院大学、皇學館大学、島根大学の各教員研究室等、山陰地方におけるオープン・カレッジ in 鳥取、四国地方における香川県の恵愛福祉事業団、九州地方におけるオープン・カレッジ佐世保運営委員会等の実践がある。

本論ではこの中で、一般市民によるオープン・カレッジ開講および継続的実践が10余年を経て、2014年現在、県教育庁生涯学習課県民学習推進班が実施する市民を対象とする生涯学習の対象者に知的障害がある人々が対象となり、県が実施する事業に発展的に移行した展開を述べる。具体的には、佐世保市における知的障害がある人々へのオープン・カレッジ開講の初期から県教育庁生涯学習課との関わり等の経過を明かにする。くわえて県立大学で開講したことにより、ボランティアとして参加した大学生が学習サポーターとしての役割以外に、企画・運営・司会・学習提供者等の役割を担う等、学生の役割の変容も大きな成果としてあげることができる。

上記の経過を検証することにより、市民が推進する事業と公的機関が実施する事業との連携の一形態を学ぶことができる。知的障害がある人々の関係者および関係団体が企画・立案する事業は、事業内容においては即応的であり、市民レベルでの草の根的な細やかな連携、ネットワークがみられ非常に価値ある実践である。一方、運営のあり方や事業展開の方法論や資金、資材、人材に関するストック等については課題が山積する。このような中で、公的機関としての生涯教育専門機関との連携により、今後の支援を必要とする卒後教育のあり方の方向性を検証することができると思う。

## 1. 佐世保市における展開

2001（平成13）年11月8日に、オープン・カレッジ佐世保運営委員会（代表豆田頼子）は、関係者にオープン・カレッジの案内を出した。内容は以下のとおりである<sup>1</sup>。

（前略）去る9月30日、知的障害のある人のためのオープンカレッジの説明会を開催しましたところ、多数の参加者のもと、開講希望に応え、また、多方面からのご協力を得ることができましたので“第1回オープン・カレッジ in

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

させば”を下記のとおり開催する運びとなりましたのでご案内いたします。入会申込、受講希望の有無等を右欄（返信用ハガキ）アンケートにお答えの上、返信くださいますようお願いいたします。尚、本年度の開講は下記日1日限りです。来年度の開講は未定ですが、年2～3回（延べ6～9日）を目標としています。第1回講義内容等、詳しいことは希望者に折り返しお知らせいたします。

この案内状に開催日時と場所、受講生対象者および受講定員が記載され、佐世保におけるオープン・カレッジの対象者の範囲が明確に定められている。開催日時は2001（平成13）年12月2日、場所はサンアビリティ、受講対象者は中学生以上の知的に障害がある人および受講定員は先着20名である。

2001（平成13）年12月2日に、第1回とびだせ！オープン・カレッジinさせばが開講した。主催は、オープン・カレッジ佐世保運営委員会である。受講生数は21名で学生サポーターも同数の21名である。開講講座は4講座で、健康科学、危機予知、剣道および写真である。講座担当は、健康科学は建部久美子、危機予知、剣道および写真は皇學館大学学生である。

2002（平成14）年4月11日に、オープン・カレッジ佐世保運営委員会代表者から、筆者に次回の開講場所は、県立大学の学生ボランティアの動きで県立大学に決まり、開講科目は、茶道、音楽、スポーツ（剣道）、本を読むように決定したと連絡があった。

2002（平成14）年5月5日に、第2回とびだせ！オープン・カレッジinさせばが開講した。主催は、オープン・カレッジ佐世保運営委員会である。開講時間は、9時から13時20分で、その後14時まで学生サポーターおよびスタッフ反省会である。

同県では、その前日の5月4日（土）に島原市の社会福祉法人銀の星学園および猛島神社が主体となって同市で初めてのオープン・カレッジが開講した<sup>2</sup>。島原さくら学舎と名付けたオープン・カレッジの受講生は30名で、サポーターは、県立大学学生、市内の高校生等20名である。講座は8科目で健康科学、数学、世界と日本の歴史、タイルアート、舞踊、中国語である。

第2回とびだせ！オープン・カレッジinさせばの開講場所は県立大学で、

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

受講生数は24名である。開講講座は8講座で、健康科学、国際理解、数学、茶道、タイルアート、本を読もう、剣道、リズム音楽で、講座担当は健康科学は建部久美子、国際理解は山本典子、数学は高橋学、茶道は地域の茶道教師、本を読もうは福山徳子、タイルアートは山村タイルアート研究所、剣道は一ノ瀬裕海、リズム音楽は地域の指導者である。

2002（平成14）年12月15日に、第3回とびだせ！オープン・カレッジinさせほが開講した<sup>3</sup>。主催は、オープン・カレッジ佐世保運営委員会である。同運営委員会の事務局の構成は、代表、運営委員長、会計、事務局、スタッフ・進行である。後援は、佐世保市および佐世保市教育委員会である。構成員6名のうち4名が教員あるいは元教員であり、同市のオープン・カレッジの設立初期が、保護者と教育者の双方の協働の視点から創成されたことがわかる。開講場所は県立大学で受講生数25名である。開講講座は8講座で、1講時目は、経済学、コミュニケーション、健康科学、本を読もう、2講時目は、リズム体操、茶道、音楽Ⅱ、手話である。講座の具体的内容は、経済学はお金について考えよう、コミュニケーションは、コミュニケーションとは何か、健康科学は、私たちの健康、生活習慣病についてオープン・カレッジテキスト<sup>4</sup>を使用し学習を進める。本を読もうは、はらぺこあおむしを読むである。2講時目のリズム体操は歌で遊ぼう、ギターに合わせて歌う。茶道は楽しく生活しましょう。音楽Ⅱは、CMやアニメの歌を歌う、手話は、手ではなそう、生き物を表現してみよう、ドラエムの歌である。8講座の担当講師の構成は、教員等大学関係者3名、中学校および養護学校教員が3名、他は地域の講師である。

学生等サポーター数は29名で、学生チーフは県立大学学生4年生である。学生等サポーターの構成は、県立大学7名、他大学4名、護衛艦ボランティアの会3名、中学校教員1名、ろう学校教員2名、市民2名、施設職員6名、他4名である。

2003（平成15）年4月20日に、第4回とびだせ！オープン・カレッジinさせほが開講した<sup>5</sup>。開講場所は県立大学である。受講生数は24名で学生サポーター数は30名である。開講講座は7講座で、健康科学、経済学、国際理解、音楽を楽しもう、茶道、手話、本を読もうである。講座の具体的内容は、健康

科学は私たちの健康について考え、生活習慣病に結びつけて講義を行う。経済学は市場経済について、価格はどうかを学習する。国際理解はタイの文化等を学ぶ。音楽を楽しもうは、音楽に合わせて自由に演奏する、身のまわりのもので楽器をつくる。手話は指文字で自己紹介する、手話で歌う。本を読もうは、野菜でベッタンのテーマで実際に野菜を切る、どんな色ができるかなは、3原色を使い自分の色を作る。

## 2. 知的障害者生涯学習実行委員会の企画

同県では、オープン・カレッジ佐世保運営委員会の実践以外に知的障害者生涯学習実行委員会（委員長松永幹・椿の会、事務局松永公隆・長崎純心大学）が、平成15年度知的障害者生涯学習・年間計画を立て年6回の講義開講を計画した<sup>6</sup>。実施期間は、2003（平成15）年5月から2004（平成16）年3月までである。同委員会は、盲・ろう・養護学校退職教職員の会の椿の会、後援長崎純心大学で構成されている。知的障害者生涯学習実行委員会による平成15年度知的障害者生涯学習・年間計画および日程は以下のとおりである<sup>7</sup>。

第1回平成15年5月17日（土）13:30～16:00 開講式、生涯学、講義「よく学び、よく生きる」講師長崎純心大学客員教授近藤原理、第2回平成15年7月12日（土）13:30～15:30 開講式、平和学「被爆体験から平和・命の尊さを学ぶ」戦争関係ビデオ鑑賞、被爆体験者の話、第3回平成15年9月27日（土）13:30～15:30 運動服等必要、開講式、スポーツ科学「健康と楽しさ」講話とスポーツ実技、講師交渉中、第4回平成15年11月22日（土）13:30～15:30 運動服等必要、開講式、生活学「就職」講話とレクリエーション、講師交渉中、第5回平成16年1月24日（土）13:30～15:30 開講式、長崎学「長崎の料理を学ぶ」講話と長崎チャンポンづくり、講師交渉中、第6回平成16年3月27日（土）13:30～15:30 開講式、生活学Ⅱ「結婚と生活」講話と体験談を聞く、講師交渉中。

## 3. とびだせ！オープン・カレッジinさせぼの学生スタッフの提案

2003（平成15）年5月26日に、オープン・カレッジ佐世保運営委員会から

筆者にメールがあった<sup>8</sup>。内容は、前回の学生サポーター会議でチーフの学生からでた提案の件である。

具体的には、本人活動の中で実施した各講義に対する意見および話し合いを、それぞれの講義終了後10分位時間をとり、その時間で振り返りを実施してくれないかということである。筆者は学生のその提案を了承し、佐世保運営委員会にその旨を返信した。以後、佐世保の講義では、講義終了後直ちに振り返りを実施するので、受講生の記憶に新しいうちに講義に対する意見および評価等を学習サポーターおよび講師は得ることができる。

#### 4. 新聞報道「知的障害がある人々に対する公開講座」

2003（平成15）年6月12日に、オープン・カレッジ佐世保運営委員会から筆者にFAXが届いた。内容は、知的障害がある人々に対する公開講座に関する新聞記事である。新聞記事の概要は、以下のとおりである<sup>9</sup>。

新聞記事は、2003（平成15）年に椿の会と私立大学の教職員有志が実行委員会を組織し、初回の講座は近藤原理氏が担当した。他の新聞記事の概要は、2003（平成15）年6月2日（月）付けで、1）公開講座の会場の大学の様子、そして県立大学でも同様の講座が始まっているという内容である。2）オープン・カレッジは、経費と講師選定に課題がある。県内の大学は一般向けに各種公開講座を開いているが、知的障害者対象には「どの程度の障害者を対象にするか、内容がつかみにくい。講師の選定が大変難しく、今の学内で講義できる人がいるか、何とも言えない」（大学の関係者の声）等実施を困難視している。同県の私立大学や県立大学も経費や講師の準備等の問題を理由に、現在は会場の提供にとどまっている。

また、市障害福祉センターは92年度から開講中で、県教委も今秋、初の1日講座を開く。生涯学習課は「大学との連携も検討し望ましい講座のあり方を勉強させてほしい」と話している。コラム「すくらんぶる」の欄で「県立大でも」と県立大学の様子を掲載している。同大学では、01年12月、知的障害者を持つ母親らが「とびだせ！オープン・カレッジinさせぼ」を始めた。市内や周辺の18歳以上の知的障害者26人が参加した。（中略）これまでに4回開いた。

ボランティアの学生や学校の先生らサポーターも35人程度集まり、支援の輪が広がりつつある。（中略）最大の悩みは運営費で、1回30万円かかるという内容である。

## 5. 県教育庁生涯学習課からの依頼

2004（平成16）年1月28日に、県教育庁生涯学習課からオープンカレッジ佐世保運営委員会代表豆田頼子氏に文書（15教生第319号平成16年1月28日）依頼があった。同依頼は「平成15年度地域ふれあい交流講座の開催について」の説明の際、注意事項等の説明をお願いしたいという旨である。具体的な内容は以下の通りである<sup>10</sup>。

「平成15年度地域ふれあい交流講座の開催について」

オープンカレッジ佐世保代表豆田頼子様宛てで、発信は、教育庁生涯学習課長（公印省略）である。標記講座につきまして、別添要項のとおり開催しますので、当日の打合せにおいて、学生ボランティアに対する注意事項等の説明者として、貴団体から3名の参加について御高配賜りますようお願い申し上げます。日時は平成16年2月29日（日）11時から16時、会場は市中央公民館、連絡先は県教育庁生涯学習課生涯学習班である。

この文書依頼の意味するものは、オープン・カレッジ佐世保運営委員会の役割が、単に同委員会が主催するオープン・カレッジを企画・立案・運営するだけでなく、県の事業としての生涯学習実施のためのボランティアへの注意説明を実施するという公的活動の役割の一翼を担ったと解釈できる。このことは、民間活動で構築されたノウハウが公的活動に生かされた事例であり、民間活動と公的活動の間に1つの協働体制としての関係性ができたことを意味する。

2003（平成15）年のとびだせ！オープン・カレッジ in させぼは、先述の4月20日、8月3日および12月13日の3回開講した。8月3日の受講生数は25名で、学生サポーター数は30名である。12月13日の受講生数は26名で、学生サポーター数は26名である。

2004（平成16）年のとびだせ！オープン・カレッジ in させぼは、4月24日、

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

10月3日、12月19日の3回開講した。4月24日の受講生数は30名で、学生サポーター数は47名である。2004（平成16）年10月3日に第8回飛びだせ！オープン・カレッジ in させぼが開講した<sup>11</sup>。主催は、オープン・カレッジ佐世保運営委員会、運営スタッフは3名でいずれも現教員あるいは元教員である。後援は、佐世保市および佐世保市教育委員会である。時間は8時から14時で講義開講前にサポーター説明会を実施し、講義終了後昼食をとり、その後、学生サポーターおよびスタッフの反省会をした。開講場所は県立大学、受講生は26名で学生等サポーター数は32名である。学生等サポーターの構成は、県立大学16名、他大学10名、短期大学3名、市立看護学校1名、福祉施設職員2名である。

開講講座は、8講座で1講時目は英語、経済学、福祉文化学、本を読もう、2講時目は書道、フラダンス、リズム音楽、和紙ちぎり絵、3講時目は本人活動である。講義内容は、英語ってたのしいは英語の楽しさを伝え、歌を歌い、文化の違いを学び、英会話を行う。経済学は銀行のはたらきを学ぶ。福祉文化学は現代のファッション・おしゃれについて学ぶ。本を読もうは作って食べる楽しみを体験する、実際にホットケーキを作って食べる。2講時目は、書道は大昔の字を書きましょう。フラダンスはフラダンスってどんなの？リズム音楽は歌で遊ぼうでギターに合わせて歌う。和紙ちぎり絵はひまわりの花を作るである。3講時目は、本人活動で県立大学学生が担当した。講義終了後は閉講式を実施した。

2005（平成17）年は、4月23日および8月7日にとびだせ！オープン・カレッジ in させぼが開講した。8月7日の第11回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼは、主催はオープン・カレッジ佐世保運営委員会、後援は佐世保市および佐世保市教育委員会である<sup>12</sup>。時間は8時から13時で講義開講前にサポーター説明会を実施し、講義終了後昼食をとり、その後反省会を実施した。開講場所は県立大学、受講生は18名で学生等サポーター数は25名で進行学生は県立大学学生2年生が行った。学生等サポーターの構成は、県立大学学生16名、他大学学生5名、短期大学学生3名、福祉施設職員1名である。

開講講座は6講座で、1講時目は九十九鳥学、本を読もう、介護、2講時目

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

は歌をうたおう、笑顔で楽しくリフレッシュ、書道、3 講時目は本人活動である。講座内容は 1 講時目の九十九島学は九十九島あそび。本を読もうはいろいろな文化にふれあおう。介護は人が人を支えるひとつの技術としての介護を学ぶ。2 講時目は歌をうたおうは長崎県立大学ギターおよびマンドリンクラブが担当した。笑顔で楽しくリフレッシュは健康ですこやかにすごすために。書道は大昔の字を書きましょう。3 講時目は本人活動で講義終了後閉講式および清掃を実施した。8 月 7 日の第 11 回の講座では初めて長崎県立大学のギターおよびマンドリンクラブが参加した。オープン・カレッジ in させほの学生の参加は、今までは同大学のボランティアクラブの学生が主であったが、他クラブとの連携が図られたことは大きな動きである。

2006（平成 18）年 3 月 5 日に第 12 回とびだせ！オープン・カレッジ in させほが開講した<sup>13</sup>。主催はオープン・カレッジ佐世保運営委員会、後援は佐世保市および佐世保市教育委員会である。時間は 9 時から 12 時 30 分で開講場所は県立大学、受講生数は 24 名で学生等サポーター数は 23 名である。進行は県立大学学生 2 年生が担当した。学生等サポーターの構成は、県立大学 13 名、他大学 6 名（私立大学 2 校で学生は 5 名および 1 名）、短期大学 1 名、専門学校 1 名、市民 2 名である。

開講講座は 2 講座でその後卒業式を挙行了した。講座は社会福祉論と本を読もうである。講座内容は、社会福祉論は人が人として生きるために必要なことを学習する。本を読もうは感謝と希望である。講義終了後に感想を話しあい、その後卒業式を挙行し、受講生に修了証書を授与した。

### 6. とびだせ！オープン・カレッジ in させほ第 2 期生開始

2006（平成 18）年 6 月以降、オープン・カレッジ in させほは、第 1 期生の 4 年間で修了し第 2 期生の開始となった。2006（平成 18）年 6 月 10 日に、第 2 期生第 1 回とびだせ！オープン・カレッジ in させほが開講した<sup>14</sup>。主催はオープン・カレッジ佐世保運営委員会、後援は佐世保市および佐世保市教育委員会である。開講時間は 13 時から 17 時で、開講場所は県立大学、受講生は 9 名、学生サポーターは 11 名で全員県立大学学生である。進行は県立大学学生 3 年

生が担当した。

開講講座は3講座で、1 講時目は社会福祉論、経済学、2 講時目はフラダンス、3 講時目は本人活動である。講義終了後に閉講式を実施した。講座内容は、1 講時目の社会福祉論は人が人として生きるために必要なことを学ぶ。みんなの経済学はまわりの経済を学習する。2 講時目のフラダンスは赤いレイをおどろう。3 講時目は本人活動で県立大学学生が担当した。第2期生第1回のオープン・カレッジの冊子には、備考に次回のオープン・カレッジは11月3日開講予定と記載されている。

## 7. 県立大学学生の講座担当の試み

2006（平成18）年11月3日に、第2期生第2回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼが開講した<sup>15</sup>。主催はオープン・カレッジ佐世保運営委員会、後援は佐世保市および佐世保市教育委員会である。開講場所は県立大学で受講生13名、学生サポーター15名である。開講講座は4講座で、1 講時目は九十九島学、科学の不思議、2 講時目はフラダンス、リズム音楽である。講座担当について、第2期生第2回にはじめて県立大学学生が担当するようになった。講座は科学の不思議である。この第2回オープン・カレッジでは、1年生の時から学生サポーターを行い、2年生になり総合進行役を行っていた学生が、次第にオープン・カレッジの企画・立案・進行に参加し、今回は講師役で活動した。この展開をみると、学生の役割の変化を顕著に見ることが出来る。オープン・カレッジでの影響が、受講生のみならず学習サポート役の大学生にも大きな影響を与えていることがわかる。

2007（平成19）年2月11日の開講<sup>16</sup>は、主催はオープン・カレッジ佐世保運営委員会、後援は佐世保市および佐世保市教育委員会である。場所は県立大学で受講生は12名、学生サポーター12名である。開講講座は3講座で、カードを贈ろう、本を読もう、よさこいである。

## 8. 平成18年度オープン・カレッジ in させぼ総会開催

2007（平成19）年4月30日に、平成18年度オープン・カレッジ in させぼ

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

総会が開催された<sup>17</sup>。2007（平成19）年4月に作成されたオープン・カレッジ運営委員会資料によるとスタッフ会議が、以下の日程で10回開催された。平成18年3月27日、4月10日、5月8日、5月30日、10月2日、10月16日、10月23日、12月12日、平成19年1月15日、2月5日である。また、平成18年5月13日に世知原じげもんバザー、平成18年11月12日に県立大学学園祭でバザーを実施した。

2007（平成19）年度のとびだせ！オープン・カレッジ in させぼは、4月30日と10月14日の2回開催された<sup>18</sup>。4月30日は第2期生第4回、10月14日は第5回の開講である。佐世保市での第4回開催前日の4月29日は島原で第2回オープン・カレッジ島原さくら学舎が開講した<sup>19</sup>。とびだせ！オープン・カレッジ in させぼの開講の主催は、オープン・カレッジ佐世保運営委員会、後援は佐世保市および佐世保市教育委員会である。4月30日の第2期生第4回開講場所は県立大学で、時間は8時30分から12時30分、受講生は24名で、学生サポーターは全員が県立大学学生で30名である。進行役は同大学学生である。

開講講座は4講座で、健康科学、経済学、環境、ニュースポーツで、講義終了後本人活動を実施した。講義内容は、1講時目の健康科学は人間における基本的欲求を学習する。経済学はカップめんから世界経済を考えよう。環境は皇學館大学学生が担当し、酸性雨について学ぼうである。講義終了後に感想を話しあった。2講時目はニュースポーツで佐世保体育指導委員会の5人が担当し、カローリング・ユニカールを行った。3講時目は本人活動でその後閉講式を実施した。オープン・カレッジ in させぼでは、講師は自己評価を提出することとしている。自己評価の様式はA4サイズ1枚で、評価内容は、講義名、講師名、内容、工夫点、反省、その他について記載項目がある。

2008（平成20）年4月29日に、第2期生第6回 とびだせ！オープン・カレッジ in させぼが開講した<sup>20</sup>。主催はオープン・カレッジ佐世保運営委員会、今回の第6回オープン・カレッジ冊子には後援の記載がない。開講時間は12時30分から16時30分、開講場所は県立大学、受講生は19名で学生サポーター

は全員県立大学で14名である。

開講講座は3講座で、健康科学、経済学、3B体操である。講座内容は1講時目の健康科学は生きる上で大切なことを学ぶ。経済学は総合演習とする。2講時目は3B体操で笑顔で楽しくリフレッシュである。3講時目は本人活動で県立大学学生が担当した。その後閉講式を行った。進行は県立大学学生が担当した。時間管理のタイムキーパーは、以前総合まとめ役や講師を担当した4年生が行い、総合的に円滑な運営管理を実施する力を付けていた。

2008（平成20）年12月14日に、平成20年度第2回オープン・カレッジinさせほが開催した。場所は県立大学である。開講講義は2講座で健康科学と環境学習である<sup>21</sup>。講座内容は、健康科学は「私の未来を創るため、今の私を考えよう。」というテーマで受講生と学生サポーターがお互いを誉めるワークをする。そして自分が相手の何を誉め、何を誉められたかを知り、自分を理解する一歩とする。環境学習は皇學館大学ヒューマンネットワーク部学生2名が担当し、ゴミの分別、缶の種類と磁石を使って缶の種類の見分け方を学習する。

## 9. 2009（平成21）年度ながさき県民大学

2009（平成21）年度のながさき県民大学の開催においては、前年の2008（平成20）年12月4日に社団法人長崎手をつなぐ育成会会長小島龍一郎から、社団法人長崎手をつなぐ育成会各理事・監事宛てに平成20年度ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座」についての通知があった<sup>22</sup>。内容は以下の通りである。

通知日時 2008（平成20）年12月4日

社団法人 長崎手をつなぐ育成会 各理事・監事宛て

社団法人 長崎手をつなぐ育成会会長小島龍一郎（公印省略）

平成20年度 ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座」について（お知らせ）

（前略）標記の件下記のとおり別紙長崎県教育委員会生涯学習課より昨年同様開催のお知らせが届いております。（後略）

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

具体的にながさき県民大学の内容は以下のとおりである<sup>23</sup>。

ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座」について（概要）～知的障害のある方を対象とした生涯学習講座～主催ながさき県民大学・長崎県教育委員会、日時 2009（平成 21）年 2 月 15 日（日）午後から、会場長崎ウエスレヤン大学ウエスレー館

受講対象者およびボランティアは以下のとおりである。

- ①知的障害がある成人の方（18 歳以上）50 名程度
- ②知的障害がある方と一緒に活動することを希望する方 20 名
- ③ボランティアとしてサポートしてくださる方 30 名程度

講座は以下の通りである。

- ①講座 1 ミュージックベル講座
- ②講座 2 和太鼓講座 勤労障がい者長崎打楽団 瑞宝太鼓
- ③講座 3 美術講座 県立養護学校教諭

別紙概要の文書下には、講座内容及び申込み方法等詳細につきましては後日、チラシでお知らせしますと明記している。

## 10. 県立大学最終開講 “とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ”

2010（平成 22）年 12 月 5 日に、第 2 期生第 8 回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼが開講した<sup>24</sup>。後援は、佐世保市および佐世保市教育委員会であり後援の掲載があった。開講時間は 9 時 30 分から 12 時 30 分で開講場所は県立大学である。受講生は 16 名、学生等サポーターは 13 名で、その構成は県立大学学生 9 名、市民が 4 名である。今回の学習サポーターは、県立大学学生以外に市民が参加したが、2006（平成 18）年 6 月 10 日の第 2 期生第 1 回目以来、サポーターは全員県立大学学生が占めていた。

開講講座は 4 講座で、健康科学、総合科学、習字、環境学習である。講座内容は 1 講時目の健康科学は思っていること、考えていること、心を伝えることを学ぶ。総合科学はなぜだろう？を探そう。2 講時目の楽しい習字は、県立大学学生 4 年生が担当した。環境学習は皇學館大学ヒューマンネットワーク部学生が担当し、甲子園浜と佐世保の海についての学習である。講義終了のあと感

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

想を話しあい、その後3講時目は本人活動を県立大学学生が担当した。進行役は県立大学学生4年生2名が担当した。

その後、佐世保のオープン・カレッジは、「ながさき県民大学知的障がいのある方を中心とした生涯学習講座」に発展的に解消し、その後県立大学での開講は実施されていない。

### おわりに ～その後の展開～

前述したように、2010（平成22）年12月5日に、第2期生第8回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼを最後に県立大学で開講していたオープン・カレッジが終了した。希望する受講生は、ながさき県民大学の知的障がいのある方を中心とした生涯学習講座を受講することとなった。

ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座」の概要は、以下の通りである<sup>25</sup>。

平成23年度ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座～知的障がいのある方を中心とした生涯学習講座～」の主催は、県教育委員会・ながさき県民大学である。後援は、長崎ウエスレヤン大学、長崎社会福祉協議会、予定として長崎県手をつなぐ育成会および長崎県知的障がい者福祉協会である。開催日時は2011（平成23）年11月12日（土）で、12時30分から講師およびボランティアの打合せを実施する。講義は13時30分から16時である。会場は長崎ウエスレヤン大学ウエスレー館他で実施する。

受講対象者およびサポーターの募集内容は、以下の通りである。(1) 知的障がいのある18歳以上の方50名、(2) 知的障がいのある方の活動をサポートしてくださる方40名を募集する。受講料は無料で、申込期限は2011（平成23）年11月12日（土）である。

講座内容は以下の通りである。

(1) 講座1 アート基礎講座「流し絵」を楽しもう。講師は長崎大学教育学部附属特別支援学校教諭、活動は、体全体をつかって表現する絵画制作をグループ制作で楽しむ。(2) 講座2 和太鼓講座、講師は勤労障がい者長崎打楽団瑞宝太鼓で、和太鼓の実演と発表をする。(3) 講座3 リズムダンス、活動内容は音

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

楽に合わせて体を動かし、振りを合わせる。(4)講座4 ミュージック基礎講座、講師は音楽療法士で、活動内容は体と心と音楽と音にふれる喜びを分かち合う。

その他の記載で、ながさき県民大学受講単位は、2単位およびボランティアは3単位である。講座を適正人数で実施するため、希望にかたよりのある場合には人数調整を行う場合があると明記されている。

その後2012（平成24）年度は、2月25日（土）と9月29日（土）の2回開催された。具体的には、2月25日（土）9時30分から11時45分に長崎ウエスレヤン大学で、9月29日（土）10時から12時30分に長崎国際大学で開催された<sup>26</sup>。

2014（平成26）年度の開催予定は年2回で、9月27日（土）は長崎国際大学で、11月8日（土）は長崎ウエスレヤン大学で予定されている。同開催の連絡先は県教育庁生涯学習課県民学習推進班である。

以上のように、2001（平成13）年から佐世保市でとびだせ！オープン・カレッジ in させぼとして開講した知的障害がある人々を対象にした学習保障の取り組みは、初期の頃から地元の県立大学を開講場所として、多くの受講生に人権としての学習権保障の取り組み、また発達・変化の保障、そして大学の地域への貢献の3本柱が遂行されていた。同実践における課題は、運営主体のあり方、講義および講師の選定、学習サポート体制の整備、継続的な運営の手段・方法論の確立等である。そのような中で、公的機関としての県教育庁生涯学習課が、知的障害がある人々を排除することなく一般市民として生涯教育事業の一環に組み入れたことは今後の課題はあるが、非常に評価すべきことである。今後、この公的な生涯教育の事業の展開の中で、知的障害を含む多くの障害のある人々への系統だった生涯教育および高等教育への接近が可能になるように、関係団体および関係機関は継続的に取り組む必要があると考える。

- \* 1 資料「ご案内およびオープンカレッジさせぼ入会申込書」平成13年11月8日付オープンカレッジ佐世保運営委員会代表豆田頼子
- \* 2 朝日新聞、毎日新聞2002年5月5日掲載、長崎新聞2002（平成14）年5月9日掲載

要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

- \* 3 資料第3回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2002（平成14）年12月15日
- \* 4 オープン・カレッジ運営委員会編代表安藤忠、編者建部久美子、安原佳子『わたしにもわかるオープン・カレッジテキストぶっく』青木印刷、平成12年9月1日、同テキストブックの作成は、2000年ライオンズクラブ・チャリティファンドの助成を受けた。
- \* 5 資料第4回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2003（平成15）年4月20日
- \* 6 資料知的障害者生涯学習実行委員会「平成15年度知的障害者生涯学習・年間計画案」
- \* 7 註6資料知的障害者生涯学習実行委員会同上
- \* 8 資料オープン・カレッジ佐世保運営委員会から筆者にウェブメール 2003（平成15）年5月26日
- \* 9 資料オープン・カレッジ佐世保運営委員会から筆者に長崎新聞、朝日新聞 2003年6月2日（月）のコピーのFAXが送られる。長崎新聞の記事のタイトルは、退職教職員、純心大の有志ら実行委つくり講座開設、知的障害者に生涯学習の場を、コラムうず潮はオープン・カレッジの取り組みから（小学校教諭松浦氏）等
- \* 10 資料2004（平成16）年オープン・カレッジ佐世保運営委員会豆田頼子氏から筆者にFAX送付。長崎県教育庁生涯学習課長からオープンカレッジ佐世保運営委員会代表豆田頼子氏宛ての文書（15教生第319号平成16年1月28日）である。
- \* 11 資料第8回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2004（平成16）年10月3日
- \* 12 資料第11回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2005（平成17）年8月7日
- \* 13 資料第12回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2006（平成18）年3月5日
- \* 14 資料2期第1回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2006（平成

要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

- 18) 年6月10日、その後、冊子には2期生という用語が使用されるが、2006（平成18）年6月10日に使用した冊子は2期でなく標記の2回という表示である。
- \* 15 資料オープン・カレッジ佐世保運営委員会年次報告（平成18年度報告より）
  - \* 16 オープン・カレッジ佐世保運営委員会（代表豆田頼子）平成18年度総会資料より 福山徳子女史オープン・カレッジ開講講座の資料作成
  - \* 17 平成18年度オープン・カレッジ in させぼ総会運営委員会資料より 2007（平成19）年4月作成
  - \* 18 資料2期生第4回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2007（平成19）年4月30日
  - \* 19 資料編集社会福祉法人銀の星学園「第Ⅱ期春季・平成19年度オープンカレッジ島原さくら学舎」冊子 2007（平成19）年4月
  - \* 20 資料2期生第6回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2008（平成20）年4月29日
  - \* 21 資料平成20年度第2回オープンカレッジイン長崎県立大学冊子 2008（平成20）年12月14日
  - \* 22 資料社団法人長崎手をつなぐ育成会会長小島龍一郎（公印省略）平成20年度ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座」について（お知らせ）2008（平成20）年12月4日付
  - \* 23 註22資料社団法人長崎手をつなぐ育成会会長同上
  - \* 24 資料2期生第8回とびだせ！オープン・カレッジ in させぼ冊子 2010（平成22）年12月5日
  - \* 25 資料「平成23年度ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座」～知的障がいのある方を中心とした生涯学習講座～」主催長崎県教育委員会・ながさき県民大学
  - \* 26 資料ながさき県民大学主催講座「ふれあい交流講座 in 長崎国際大学」実施要項～知的障がいのある方を対象とした生涯学習講座
- ふれあい交流講座 in 長崎国際大学および長崎ウエスレヤン大学の知的障がいのある方を中心とした生涯学習講座の概要  
主催 長崎県教育委員会ながさき県民大学

## 要支援者への高等教育への接近の軌跡Ⅱ（建部）

I 2012（平成24）年2月25日（土）9:30～11:45

募集定員①受講者 県内在住の知的障がいのある18歳以上の方 25名 ②ボランティア 受講者の活動や運営をサポートしてくださる方 15名

講座内容 バレエの基本を学びながら、楽しく音楽に合わせて体を動かします。

締切 2月10日（金）

後援 長崎ウエスレヤン大学、長崎国際大学、長崎社会福祉協議会、（予定）長崎県手をつなぐ育成会 長崎県知的障がい者福祉協会、問い合わせ先 長崎県教育庁生涯学習課 県民学習推進班

II 2012（平成24）年9月29日（土）時間 10:00～12:30

ふれあい交流講座 in 長崎国際大学、問い合わせ長崎県教育庁生涯学習課県民学習推進班、会場 長崎国際大学、定員 25名

講座 リズムダンス

III 2012（平成24）年10月13日（土）時間 13:00～15:30

ふれあい交流講座 in 長崎ウエスレヤン大学、会場 長崎ウエスレヤン大学 定員 60名

講座①リズムダンス②和太鼓講座勤労障がい者長崎打楽団瑞宝太鼓③アート基礎講座 講師長崎大学教育学部附属特別支援学校教諭

IV 2013（平成25）年9月28日（土）10:00～12:30

ふれあい交流講座 in 長崎国際大学 会場長崎国際大学、主催長崎県教育委員会ながさき県民大学主催講座、後援 長崎国際大学、長崎社会福祉協議会、長崎県手をつなぐ育成会 長崎県知的障がい者福祉協会、ボランティア 20名程度、受講料無料、講座1リズムダンス 定員 30名、講座2笑いヨガ講座 定員 20名、問い合わせ長崎県教育庁生涯学習課県民学習推進班

V 2013（平成25）年10月26日（土）13:00～15:30

ふれあい交流講座 in 長崎ウエスレヤン大学 会場長崎ウエスレヤン大学、主催長崎県教育委員会ながさき県民大学主催講座、後援 長崎ウエスレヤン大学、長崎社会福祉協議会、長崎県手をつなぐ育成会、長崎県知的障がい者福祉協会

講座1リズムダンス、定員 20名、講座2和太鼓、定員 15名、講師勤労障がい者長崎打楽団瑞宝太鼓、講座3アート切り絵基礎講座、定員 25名